



神奈川東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2013-2014年度 R I 会長 ロン D. パートン

●クラブテーマ「心を見つめよう」●



第2590地区 ガバナー 市川 緋佐磨

- 会 長 伊 東 英 紀
- 会長エレクト 山 田 正 憲
- 副 会 長 江 森 国 一
- 副 会 長 横 山 範 夫
- 幹 事 山 本 芳 弘
- 副 幹 事 植 田 清 司
- 会 計 朝 日 達 夫
- 副 会 計 須 永 久 一
- S A A 矢 野 修 二
- 副 S A A 小 山 市 康
- 副 S A A 石 川 正 三
- クラブ会報 佐 藤 勝 彦



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン 創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2013-2014年度 第16週報 No. 1810 2013年(平成25年) 10月25日 第1810回例会記録 11月 1日発行

司 会 植田 清司 副幹事

結婚記念日祝 天野 公史 会員 (10月29日)
横山 範夫 会員 (10月31日)

点 鐘 伊東 英紀 会長



斉 唱 「手に手つないで」

四つのテスト 伊澤 政宏 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介

桑原 薫 様 (ロータリーの友 地区代表委員)



本日〈11月1日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献 立 真鯛のポワレ シャンピニオンソース
- ◆ 卓 話 「強いDNAが100年企業を創る」
(株)バンダイナムコホールディングス 代表取締役社長
石川 祝男 様
(紹介者 白鳥 厚夫 会員)

<< 本日のBGM 「たそがれの散歩道/葛西俊秀作品集」 >>

会長報告

伊東 英紀 会長

- ・地区大会のお礼状が地区より来ております。
- ・地区大会の報告 出席者数 27名
長寿会員表彰 岩澤利雄会員、石川正三会員、山本幹夫会員
(欠席)



幹事報告

山本 芳弘 幹事

- ・次週、例会終了後に職業奉仕によるクラブフォーラムを開催致します。大勢の参加をお願い致します。

出席報告

長井 章 出席委員長

会員総数	54名	(36+18)名	
出席会員数	37名	(28+9)名	
出席率	82.22%		
ゲスト	1名	ビジター	0名
前回補正後	92.00%	前々回補正後	91.84%

スマイルボックス

小山 市康 副SAA

ロータリーの友 地区代表委員(横浜港北R.C) 桑原 薫様
本日、卓話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

横山範夫君 ②ロータリーの友 代表委員 桑原様、卓話、よろしくお願い申し上げます。②結婚記念日祝い、ありがとうございます。今年で37年。そろそろ遺言書でも書いておこうかな・・・。

天野公史君 ①本日は、結婚記念日祝い、ありがとうございます。結婚24年が過ぎ、来年銀婚式です。諸先輩方を見習い、頑張ります。②桑原さん、本日は卓話、ありがとうございます。

伊東英紀君 桑原様、本日の卓話、よろしくお願い致します。

田邊正彦君 桑原様、ようこそおいで下さいました。本日の卓話、よろしくお願い致します。

吉田隆男君 ①本日は、地区ロータリーの友委員長 桑原薫様、卓話、よろしくお願い致します。②竹山テーブルマスター、加藤テーブル副マスター、昨日は美味しいお料理ありがとうございました。まだ効能の程はあられていません。

加藤仁昭君 昨日の第3テーブルミーティング参加の皆様、ご苦労様でした。スタミナ源のスッポンを食べ、元気が出ました。

山本芳弘君 昨日のテーブルミーティング、急に欠席致しまして申し訳ありませんでした。

江森国一君 昨日のテーブルミーティング参加の皆様、“元気ですか〜”。

伊澤政宏君 ①本日、早退させていただきます。②桑原様、本日の卓話、よろしくお願い致します。

山田正憲君 ①昨日のテーブルミーティング参加の皆様、お疲れ様でした。加藤さん、竹山さん、ありがとうございました。②地区RYLAの参加者募集しています。よろしくお願い致します。

朝日達夫君 入会祝い、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

植田清司君 ①桑原薫様、本日の卓話、よろしくお願い致します。②竹山第3テーブルマスター・加藤副マスター、昨日のテーブルミーティング、お疲れ様でした。

茂木知子様 ~ポーズとは~第2テーブルミーティングの席上、植田会員、江森会員が「ポーズは」とか、「ポーズの」など、ポーズを連発していました。私はポーズとは、山本幹事のことだと思っていました。音響機器メーカー名だそうです。P.S 犬飼先生に、急遽歯を治して頂くことが出来ました。

竹山 洋君 第3テーブルミーティング出席の皆様、ありがとうございました。加藤さん、友添さん、お世話になりました。

友添辰哉君 竹山テーブルマスター、お疲れ様でした。山本幹事がドタキャンでしたので、川を渡れずに野毛の街を彷徨ってました。

白鳥厚夫君 ①昨日のテーブルミーティング不参加、誠に申し訳ございません。②桑原薫様、職業奉仕について、よろしくお願い致します。③バナー返還、ありがとうございます。2000円返還させていただきます。

佐藤勝彦君 昨日のテーブルミーティング出席の方、また、竹山さん、加藤さん、お疲れ様でした。所用で途中退席しましたが楽しかったです。友添さん、ありがとうございました。

小山市康君 昨日のテーブルミーティングご出席の方々、お疲れ様でした。何か美味しいものを食べて元気になっているような気がします。気のせいでしょうか？

10月25日	19件	46,000円
本年度累計		737,738円



「職業奉仕と奉仕の理想」

ロータリーの友 地区代表委員 桑原 薫 様
(紹介者 吉田 隆男 会員)



【ロータリーの基本】

1. Serviceと奉仕

米山梅吉先生はserviceを奉仕ではなく「サーヴィス」と訳しました。Serviceには、業務・役務・有用・提供・貢献など様々な意味がある上に、有償か無償か・見返りの有無・その対象・その方法・受益者が誰かなどの条件によって様々なサービスになるからです。つまり奉仕はserviceの一つです。ちなみに中国ではserviceが服務、奉仕は利他主義です。

2. 奉仕の理想と奉仕

「ロータリーのサービス」として1911年に生まれ1923年に正式に追認されたものが「奉仕の理想」という理念です。「奉仕」が自分より他者を利することなのに対して、「奉仕の理想」は自分と同じ様に他者を利することです。それゆえに「奉仕の理想」は事業の基礎としても成立するのです。The ideal of service (奉仕の理想)の直訳は「サービスの理想像」ですが、理想像の哲学用語が理想なので、米山先生はidealを理想と訳したのです。

3. 理論派と実践派

1922年「奉仕の理想」を実践する「理論派」と奉仕を実践する「実践派」とで大論争が起きます。争点の本質は相利主義か利他主義か、すなわち他者の為に自分を役立てるのか、自己を犠牲にして他者に尽くすのかということです。1923年正式に前者に決まります。利他主義は、強者が弱者に自己犠牲を強いるとき、それを正当化する為の方便になるからです。

4. 国際ロータリーとロータリー財団

どちらもfellowship (同じ信念を共有する仲間の集まり)であることは同じですが、信念が別なのです。ロータリークラブとその連合体である国際ロータリーが奉仕の理想(利己と利他の中庸)を目

指している団体であるのに対し、1928年別の組織として独立したロータリー財団は奉仕すなわち利他主義を目指している組織です。

5. 第一標語と第二標語

「奉仕の理想」の哲学的声明が第一標語で経営学的声明が第二標語です。第一標語は1911年にはservice not selfで、これが「相互扶助の会員外へ拡大」という意味であることからselfが我でなく我欲であることがわかります。Selfを我と誤解されないようにnotをaboveに改めたのです。つまり、service above self(超我の奉仕)の直訳は「我欲よりも貢献欲」です。

6. 職業奉仕と第二標語

職業奉仕には1908年入会シェルドン作と1927年のロータリー作があります。どちらも事業主が顧客や社員などの「職業関係者にサービスすること」です。それがリピーターの増加や社員のモチベーションの向上を促し、事業が発展して事業主も報われるというのが職業奉仕理念です。これを表す標語が1910年の「自分の仲間に最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」で、翌年「自分の仲間に」という条件をはずした標語すなわち第二標語が「奉仕の理想」を表すものです。直訳は「貢献する程、利益が増える」です。

7. 奉仕の理想と四大奉仕

「奉仕の理想」という理念を個人奉仕という方法で、クラブ・職場・社会・国際社会で実践するものが1927年の四大奉仕です。このうち物質的利益を生むのは職業奉仕だけですが、どの奉仕でも「自他を互いに高めあう」という形での相互受益が可能です。この究極の形が「全人類の高人格化による平和実現」です。

8. 個人奉仕(アイサーブ)と団体奉仕(ウイサーブ)

一般の奉仕団体は、奉仕すなわち利他主義(altruism)を団体という方法で実践しています。団体奉仕とは個々で充電したものを皆で放電することです。充電するものは金銭で、放電するものは金品や労働です。個人奉仕とは皆で充電したものを個々で放電することです。充電するものと放電するものには主に見識と人間性です。

9. 親睦と奉仕

団体奉仕では、奉仕の対象や優先順位を正しく見極めることは困難です。また団体から団体へ金品が渡っても、愛と敬意は一人から一人にしか伝わりません。個人奉仕は、団体奉仕の欠点を補いながら他者に良い影響を与えることが出来ます。この個人奉仕における充電と放電がロータリーの「親睦と奉仕」です。「ロータリーで高めた自分を人の為に役立てること」は「入り学び、出でて奉仕せよ」と謳われております。

10. 四つのテスト

1931年ハーバート・テラーは、倒産に瀕する企業を再建する為の行動指針を作りました。1. 事実かどうか 2. 関係者一同に公平か 3. 信用を築き関係を改善できるか 4. 関係者一同の利益になるか、すなわちこれは商取引における手引きをチェックリストの形にしたものです。

フェリス女学院へ感謝状贈呈

10月25日（金）、角田新世代奉仕委員長と茂木国際奉仕委員長が、絵本の翻訳に携わっているフェリス女学院へ感謝状を届けて下さいました。



第12回ロータリー日韓親善会議の報告

矢野 修二 会員

10月19日～20日、韓国のグランド・ハイアット・ソウルで第12回日韓親善会議が開催され、私も他クラブの知人からのお誘いがあり出席して参りました。

日本からは411名のロータリアンの参加、そして2590地区からは3クラブ（4名）の参加となりました。

1982年に始まった親善会議の目的は、ロータリーの目標である理解と親善を深めることであります。

日韓親善委員長の今井鎮雄氏と顧問であるR I 直前会長の田中作次氏の祝辞を掲載致します。

【今井鎮雄氏祝辞文】

スタンレー E. マキャフリーR I 会長（1981-82）が「ロータリーを通じて、世界理解と平和を」と呼びかけられてから、すでに30年が経ちました。マキャフリー会長は具体的に、世界の中で国と国とが近くにありながら必ずしも親しみや温かさを持っていない国々がある、そこにロータリーが橋を架けよう、と呼びかけられました。この言葉の中に私たちの反省があることを覚えた韓日のロータリアンは、会長の意思を尊重し、この二つの国がロータリーの願う平和と友情の道を歩むようにと、親善会議を開くことになりました。

1982年、第1回韓日親善会議が韓国・ソウルで開催され、日本の細谷実行委員長は、「良き隣人関係を創り上げよう」という、私たちの願いがこもったスピーチをされました。その後、皆の希望もあって韓日親善会議は二年に一度開かれることとなり、途中、何年かのインターバルはありましたが、今日まで続けられてきました。

一昨年の2011年は日本で開かれる予定でしたが、ご存知のように

3月に東日本大震災が起き、あまりにも被害が甚大で、その秋に会議を開くのはかえって多くの人に無理を強いることとなると考えた日本側の実行委員は、ここソウルを訪れ、韓国側の実行委員の方々のご相談し、日韓親善会議の開催を1年延期して頂くことになりました。お蔭様で、韓国のロータリアンの皆様をはじめ、世界から多くの支援を受けて、徐々にではありますが東日本大震災の被災地も復興への道を歩んでいます。

しかし、ロータリアンの努力にも関わらず、韓日関係は歴史、領土、など様々な問題を浮上させてきました。これらの問題を解決するには、ロータリアン一人ひとりが更なる友情を持って語り合うことが必要でしょう。握手を交わしたり、言葉で友情を分かち合うだけではなく、真に大事な問題について語り合い、それぞれの国に響かせていくことが大切なのではないでしょうか。

今回の韓日親善会議には、光栄にも韓国からは政府高官の皆様が、また別所浩郎駐韓日本大使がお出まし下さいます。蔡 熙秉韓日親善会議委員長のお考えのように、私たちは、この会議が単なるロータリーのプログラムの一つとして今日・明日を過ごすのではなく、心から分かち合える友を見つけ、語り合う機会となることこそ必要だと思えます。

会議のご準備を頂いた韓国と日本のロータリアンの皆様、ならびに関係各位に心から御礼を申し上げます。この会議を終えるとき、ここに集まったすべてのロータリアンが新たな友情と暖かな手を感じつつ、また、より深く相手を理解し、喜びを持ってそれぞれの地へ戻ることが出来るよう、これから共に過ごす時間を有意義なものにしようではありませんか。

【田中作次氏祝辞文】

ロータリー・クラブのある地域社会は、クラブがない地域よりも必ず良い場所になると、私はいつも信じています。ロータリーがある地域社会の人々の人生は、もっと豊かなものになるでしょう。

ロータリーが大きくなれば、それだけ強くなりますが、しかし、会員数を増やすことだけを目的に新会員を入れても、ロータリーは強くなりません。ただクラブに入会するのではなく、真のロータリアンとなれる人を迎え入れ、そして適切な教育をしてこそ、ロータリーは強くなるのだと思えます。

私が八潮ロータリー・クラブに入会した日は、新しい人生を歩み始める第一歩となりました。人々とのつながり、奉仕を通じた満足感や達成感、そして平和を、それまでよりも深く感じるようになりました。私は、この気持ちを多くの人に伝えていきたいと考えておりますが、その方法の一つが、ロータリーへの入会をお誘いすることだと考えています。この面で、近年における韓国のロータリアン数の増加は私たちの素晴らしい見本です。

入会見込者に伝えなければならないのは、ロータリーが素晴らしい団体であり、そしてロータリーへの入会によって彼らの人生がより豊かになるということです。ここにいる私たち全員が、会員であることの素晴らしさを知っており、ロータリーを愛しています。私たちがロータリーでつけた幸せを、他の多くの人々にも知って頂きたいと思えます。

私にとって、「超我の奉仕」とは、人生そのもののあり方です。人は誰も一人では生きていけません。誰もが、地域社会、家庭、学校、職場などで、ほかの人々と人生を分かち合っています。

誰かと人生を分かち合いたいという気持ちは、人間として自然なことです。自分が幸せな時や悲しい時、成功した時や困難に直面した時、誰かにそばにいてほしいと感じるものです。それと同じように、誰かが私たちのことを必要としています。

地域社会での奉仕は、人を助けることだけでなく、自分自身にとっても得るものがあるはずです。奉仕活動を通じて近所の人たちをもっとよく知ることが出来ます。また、その人たちに、地域社会の大切さを伝えることが出来ます。「世界でよいことをしよう」と言葉で言うだけでなく、実際に行動で示すことが重要です。活動の大小は、問題ではありません。大切なのは、自分たちの手でより良い世界を実現しようと努力することです。また、私たちロータリーがそのような努力をしていることを、人々に知って頂くことです。

これまで私は、世界各地の訪問を通して深く印象に残ったプロジェクトは数々あります。ケニアでは、親がエイズで亡くなったために、孤児となった子供たちのための施設を見学しました。このような子供たちはあまりにも多く、施設に入ることが出来ない子供たちが大勢います。こうした状況を認識した地元のロータリアンは援助の手を差し伸べ、他の国のロータリアンと協力して、彼らのための施設と学校を設けました。このプロジェクトによって、子供たちは路上生活から救われた上、ベッドと食事に加え、介護や教育を受け、生活技能を習得し、家庭の雰囲気と希望のある未来が与えられます。

このようなプロジェクトを1つ地元社会が単独で支援することは困難です。しかし、ロータリーを通じて、いくつかの地域社会が協力すれば、子供たちを助けることが出来るのです。



この写真は食事会にて R I 直前会長の田中作次氏と私

もう (World Polio Day: Making History) 」と題するイベントを米国シカゴにて開催しました。ノースウェスタン大学グローバルヘルスセンターの共同主催の下で行われたこのイベントは、インターネットでも生中継され、世界中のポリオ撲滅支援者が視聴しました。

国際ロータリーのロン・パートン会長が最初に挨拶し、1970年代にロータリーがフィリピンをはじめとする国々でポリオ予防接種活動を始めたことを紹介。「この活動でポリオの感染率が激減したことから、ロータリーは1988年、世界保健機関 (WHO) 、ユニセフ、米国疾病対策センター (CDC) と連携して、世界ポリオ撲滅推進計画 (GPEI) を立ち上げました。最近、ビル&メリンダ・ゲイツ財団がこの活動に多大な支援を寄せてくださっています。撲滅を成し遂げることは、極めて重要です」

次に、ノースウェスタン大学グローバルヘルスセンター所長であるロバート・マーフィーさんが講演し、ポリオ撲滅が「実現可能である」ことを強調しました。「(撲滅によって) 何十億人という人々を身体障害や死から救うことができ、何億ドルという資金が節約でき、何よりも、世界中の親たちがこの恐ろしい病を心配しなくて済むのです」とマーフィー氏は語りました。

デニス・オグベさんは、ポリオによって足に障害を抱えるという障害を乗り越え、パラリンピックの選手となりました。国連財団の「Shot@Lifeキャンペーン」の大使として、子どもたちへの予防接種推進を支援しているオグベさんは、障害を抱えることの困難さを自身の体験を交えて語り、今後何世代にもわたって人々をこの病から守るチャンスであることを強調しました。「何事も不可能なことはないと考えるようにしています。ポリオ撲滅も、必ずや実現が可能です」と話すオグベさん。「私たちはポリオ撲滅活動の長い道のりを歩んできました。今こそ、撲滅を完遂し、力強くゴールラインを切ろうではありませんか」

世界保健機関 (WHO) でポリオ/緊急事態/各国協力の事務局長補を務めるブルース・アイルワード博士も、ポリオ撲滅が実現可能であることを強調します。

2013年、ポリオ常在国 (アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン) でのポリオ発症数は、昨年の同時期と比べて40パーセント減少しています。また、ポリオウイルス2型は既に根絶され、11月には全世界でポリオウイルス3型の報告がなくなってから1年間を迎えると話します。

アイルワード博士が指摘する課題の一つは、東アフリカで報告された200件のポリオ発症例です。この事態に対し緊急措置が取られたおかげで、同地域の感染数は減少しつつあるそうです。ポリオ撲滅・エンドゲーム戦略が不足資金を埋めることができれば、こうした緊急事態にも即時に対応できるようになります。

「ロータリーが25年前に描いたビジョンに、今、国際社会が賛同し、すべての子どもにポリオ予防接種を提供できれば、世界中の子どもたちがよりよい未来を迎えられるでしょう。そしてポリオだけでなく、そのほかの疾病を予防する道が開かれます」

世界ポリオデーのイベントでは、パキスタンで子どもに予防接種を行う保健従事者とロータリアンの弛みない努力をとらえた短編ビデオが紹介されました。このビデオでナレーターを務めた、パキスタン・ポリオプラス委員会のアジズ・メモン委員長は次のように話します。「困難であっても、あきらめることはありません。私たち

ロータリーニュース

世界ポリオデー

ロータリーがポリオ撲滅を紹介するイベントを開催

「世界ポリオデー」である10月24日、ポリオ撲滅への注目を高めるために、ロータリーは、「世界ポリオデー：歴史に1ページを刻

はパキスタンで必ずやポリオを根絶できると信じています」

モデレーターを務めたジェニファー・ジョーンズさんは、「End Polio Now:歴史に1ページを刻もう」の募金キャンペーンへの協力を参加者に訴え、ビル&メリнда・ゲイツ財団との新たな合意により、寄付が3倍になることを説明しました。また、すでに150カ国から5万人以上が参加している「世界最大のCM」を通じて、ポリオのない世界の実現への応援も呼びかけました。

エミー賞女優でポリオ撲滅大使のアーチャー・パンジャビさんも講演し、ポリオのない世界の実現への固い決意について語りました。

「10歳の頃にインドに住んでいましたが、通学途中に、私よりも年下の子が、ポリオによって完全に麻痺してしまった足をひきずって物乞いをするのを目の当たりにし、心が痛みました」とパンジャビさん。ポリオについて色々と調べ、ロータリーがこれまでポリオ撲滅において行ってきた活動や、2011年にインドでポリオ無発生が達成された際のロータリーの貢献を知り、感銘を受けたと言うパンジャビさんは、昨年、ポリオ撲滅への闘いに加わりました。さらに彼女は、スピーチの結びに次のように述べました。「私の力が及ぶ限り、ロータリーと世界ポリオ撲滅推進計画のパートナーを応援していきます。皆さんも、自分にできる範囲内で協力していただければ、一緒に、世界からポリオをなくすことができるでしょう」

イベントの最後でジョーンズさんは、インターネット中継の視聴者を含むすべての参加者に、ソーシャルメディアを利用して、友人やフォロワーにポリオ撲滅の重要性を伝えるよう奨励しました。

「ポリオ撲滅を成し遂げるためのリソースを集めるには、政府へのアドボカシー活動が必要」と述べたジョーンズさんは、ポリオ撲滅という歴史の1ページを刻む活動への幅広い支援を呼びかけ、このイベントを締めくくりました。

ロータリー・ニュース

開催地 県立YMCA三浦ふれあいの村
(三浦市初声町和田3136 TEL 046-888-2100)

参加者 18歳(高校生を除く)から30歳までの青少年 100名

参加費 一人当たり10,000円(参加費用は推薦クラブ負担)

申込期間 2013年10月21日(月)～11月29日(金)
(申込みは神奈川県R.C事務局 田中迄お願いします)

主催 国際ロータリー第2590地区(横浜・川崎地区)

11月～2月 テーブルメンバー表

2013～2014年度 11月～2月 テーブルメンバー表

テーマ「自分がロータリアンだと再認識する時は」

◎ マスター、○ サブマスター

第1テーブル

◎ 佐藤 勝彦
○ 梅崎 興生
友添 辰哉
山田 富雄
我妻 隆邦
横溝 亘
吉田 隆男
山本 幹夫
竹山 洋
田中龍太郎
田口健太郎
鴻 義久
大橋 秀行
河野 明光
山本 登

第2テーブル

◎ 白井 康夫
○ 飯田 泰之
月山 勇
岩澤 利雄
伊澤 政宏
朝日 達夫
中村 真巳
須永 久一
金森 欣一
角田 伯雄
雨宮 和則
青柳 紀
山崎 善也
加藤 仁昭
白鳥 厚夫

第3テーブル

◎ 中野 真理
○ 澁谷 高弘
小池 将夫
吉橋佐千男
渡邊 淳
天野 公史
森永 健
田邊 正彦
長井 章
赤堀 和人
但野真実子
西山 潔
藤橋恒一郎
茂木 知子
保坂 一成

※ テーブルマスターは、ミーティングの内容を簡単にまとめてSAAまでご提出下さい。

会 長	伊東 英紀
副会長	江森 国一
副会長	横山 範夫
会長エレクト	山田 正憲
幹 事	山本 芳弘
副幹事	植田 清司
S A A	矢野 修二
副S A A	小山 市康
副S A A	石川 正三

2013-14年度 第30回RYLA開催要綱

【開催趣旨】

2011年の東日本大震災と原発事故以来、私たちは周期的に発生する大災害から逃れられないという現実を目の当たりにしました。そして、防災と災害対策にこれまで以上に取り組んでいかなければならないことが明白になりました。こうした状況の中、ロータリーのプログラムを通じて、何ができるのか、何をすべきなのかを考えることは非常に重要であるのみならず、ロータリアンの使命でもあります。ガバナーメッセージにも謳われた「行動を主体とした奉仕を推進する」ために、避難所生活を体験し、非常時にも対応できる次世代のリーダーを養成することを目的とし、ロータリー青少年指導者養成セミナー(RYLA)を開催します。

テーマ 『災害時のリーダーシップ』

日 程 2014年2月15日(土)～16日(日) 1泊2日
2月15日 AM9:30現地集合 家用車不可

次週《11月8日》の卓話予定

テーマ 「マリオ鈴木の世界」

ギタリスト・作曲家 マリオ鈴木 様
(紹介者 矢野 修二 会員)